

第2期神戸いのち大切プラン（中間評価）

1. はじめに

本市では平成 29 年3月に「第2期神戸いのち大切プラン」を策定し、総合的な自殺対策に取り組んでいる。このたび、自殺者数の推移、プランに基づいて実施してきた取り組み、市民意識の変化などについて評価を行い、今後、重点的に取り組む自殺対策の方向性を取りまとめた。

2. プラン概要

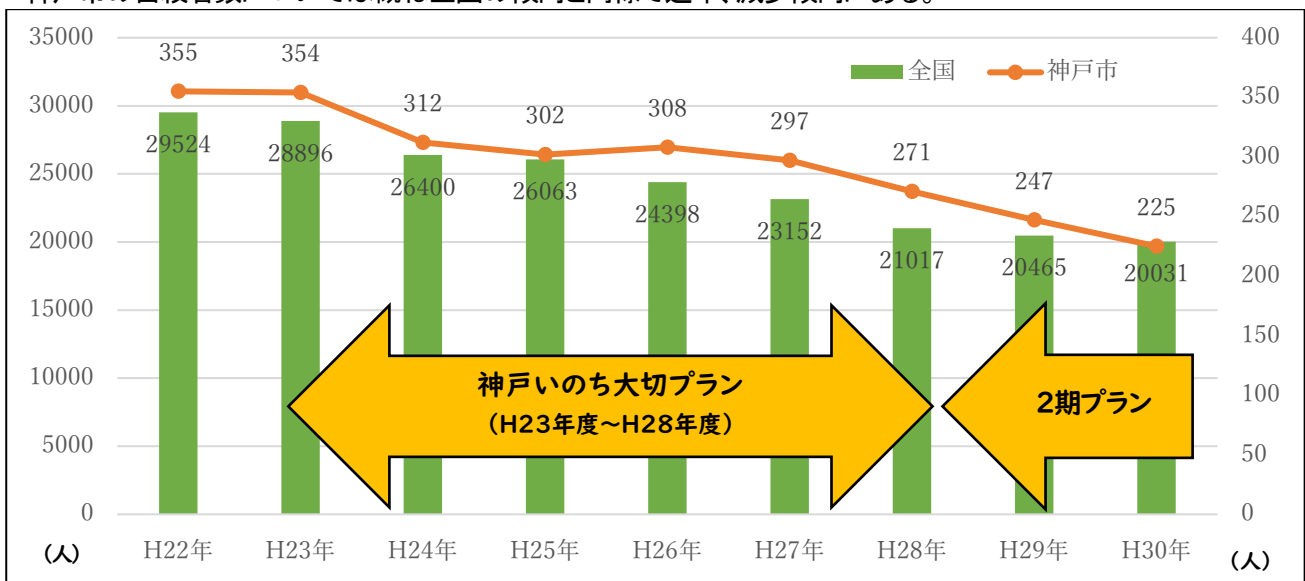
< 期 間 > 平成 29 年度～令和4年度

< 基本理念 > 市民一人ひとりがかけがえのない命を大切に、身近で悩む人をみんなで支えあう、
生きやすいまち・神戸

< 目 標 > ・ひとりでも多く自殺者を減らす
・こども(10代)の自殺者をなくす

3. 自殺の現状

神戸市の自殺者数については概ね全国の傾向と同様で近年、減少傾向にある。



※H29年度～H30年度の10代の自殺者は16人

4. 計画前期における主な取り組み実績（平成 29 年度～令和元年度）

【対策の柱別】

	事業	実績	内容
普及啓発の重点実施	神戸自殺対策総合フォーラム	参加者延数 210人 ※	自殺対策強化月間である3月に神戸市医師会、兵庫県弁護士会、兵庫県司法書士会と共催にて、市民対象に自殺予防につながる講演会を開催
	その他	・関係機関等への相談窓口ポスター掲示 ・さんちか夢広場における街頭啓発(年2回) ・花時計ギャラリー展示(年2回)	

相談支援機関の充実と地域連携体制の強化	ゲートキーパー養成研修	受講者延数 872件 ※	市民対象、高齢者支援者対象、若年者支援者対象、薬剤師対象などテーマや実施形態を変えながらゲートキーパーの養成を実施
	かかりつけ医うつ病対応力向上研修	受講者延数 159人	内科等のかかりつけ医を対象に適切なうつ病診療の知識・技術の習得と精神神経科との連携を図ることで、自殺予防につなげることを目的として、市医師会と共催で開催
	自殺予防とこころの健康電話相談	相談件数延 8,681件	自殺の予防やこころの健康に関する電話相談を実施
こころの健康づくりの推進	うつ予防セミナー	受講者延数 529件	「はじめて学ぶ認知行動療法」をテーマに精神科医と臨床心理士を講師にうつ病についての基礎知識や認知行動療法についてのセミナーを開催
	ストレスケア講座	受講者延数 116人 ※	働く人を対象にストレスを受けた時のセルフケアなどストレスケアに関して臨床心理士による講座を開催
	ストレスマウンテン	WEBアクセス延数 169,935件	過去6か月以内に経験した出来事にチェックするだけで、ストレス蓄積度をチェックできる「ストレスマウンテン」をWEBで展開
自殺未遂者や自死遺族支援の充実	自殺未遂者支援者研修	受講者延数 201人	自殺未遂者に業務で関わる支援者を対象に研修会を開催
	神戸G-Pネット	利用延数 8件	重度のうつ病患者等を一般かかりつけ医から精神科専門医へつなぐためのネットワークを設置
	自死遺族支援団体への補助	補助団体延数 11団体	自死遺族支援団体が行う分かち合いの会や講演会などの補助助成

※印は新型コロナウイルス感染症の影響により令和元年度未実施

【対象別】

事業	実績	内容
くらしとこころの総合相談会	相談延数 71件	自殺予防週間、自殺対策強化月間である9月と3月の年2回、兵庫県弁護士会と共催にてハローワークを会場として相談会を実施
いのちとこころの学習	受講者延数 生徒 1,007人 職員 249人	応募があった中学校を対象にこどもの自殺予防教育モデル事業「いのちとこころの学習」と教職員研修を実施。(令和元年度開始事業)

5. 市民調査結果

市民意識の変化を検証するため、市民調査を実施しましたので一部抜粋して報告いたします。

※詳細結果については別添をご参照ください。

(概要)

期 間	令和元年9月17日～9月30日
方 法	18歳以上の市民4,000人を無作為抽出、郵送による調査
回 収 率	39.5%
質問項目	44項目

<調査結果から分かったこと>

本プラン策定時と今回の調査結果を比較、willcoson を用いて検証した結果、「自殺予防とこころの健康電話相談」「自殺予防週間9月10日～16日、3月の自殺対策強化月間の啓発」の知名度に有意差がみられた。このことから普及啓発については一定の効果があったと考えられる。

(主な意見)

対策の4本柱	記入内容
普及啓発の重点的实施	<ul style="list-style-type: none"> ・自殺対策や自殺の現状について知らなかった。(本調査により自殺対策が行われていることを知った) ・マスコミ、TV、SNS など広報を大々的にし、正しい情報・知識を広める必要がある。 ・本人や家族だけの問題とせず、社会の問題として捉える必要がある。 ・学校での教育が重要である。
相談支援機関の充実と地域連携体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・相談機関の存在を誰もが知れるよう広報する。 ・できるだけ多くの相談場所を設置し、誰にでもたくさんの逃げ道があるようにする。 ・専門的相談機関の充実を図る。 ・ネットや SNS などを活用した相談窓口設置があるとよい。
こころの健康づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・思いやりのある社会にする。 ・希薄な人間関係が孤立を招いているため、地域コミュニティによる支援が必要である。人と人とのつながりを大切にする。 ・身近な人が話を聴き寄り添って、孤立させないことが大切である。
自殺未遂者や自死遺族支援の充実	<p>(自身の体験談)</p>
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・わからない ・宗教を信仰すること
少数意見	<ul style="list-style-type: none"> ・今回のアンケートに協力したことがきっかけで、自殺総合対策大綱を読むきっかけとなった。 ・子どもにとって一番大事なのは母親である。

6. 評価と今後の方針について

平成 29 年3月に「第2期神戸いのち大切プラン」を策定以降、庁内外の推進体制を整備し、関係機関と連携を行いながら、様々な事業を展開した。

計画前期を終えて、「ひとりでも多く自殺者を減らす」という目標については策定以降、着実に減少しており一定の成果を得ている。

一方、2つ目の目標である「こども(10代)の自殺者をなくす」については、10代の自殺者はむしろ増加傾向にあり、より一層の対策が求められる。

本市では平成30年度より教育委員会事務局と緊密に連携を図りながら、こどもの自殺予防教育事業に取り組んでいる。引き続き、こども達への SOS の出し方等を伝える授業や教職員への研修などこどもの自殺予防を推進する。

数値目標の設定

本プラン策定にあたり、有識者会議で目標の設定（数値化）について議論した結果、「自殺者については、何人まで減らせればよいというものではなく、できる限り減らしていくための対策を組むことが必要であり、また数値化の根拠を明確にすることは難しい」ことから設定しないこととしていました。

しかし具体的に目標をたてて施策を推進することも必要であるという意見から、自殺者数ではなく、掲げている目標を評価および達成するための数値目標を立てることとなりました。

○ひとりでも多く自殺者を減らす


→ゲートキーパー養成研修受講者延べ人数 1,500 人をめざす

（令和元年度末現在 872 人）

○子ども(10代)の自殺者をなくす

→子どもの自殺予防教育モデル事業「いのちとこころの学習」41 校(市立中学校の半数)で実施する。

<参考> 自殺率(人口10万人あたり)と平成27年からの減少率

	全国	神戸市	減少率
平成27年	18.5	19.3	
28年	16.8	17.6	
29年	16.4	16.1	
30年	16.1	14.7	

本プラン策定後の平成29年7月25日に閣議決定された自殺総合対策大綱では、「自殺率を27年と比べて30%以上減少させる」とされており、参考のため平成30年時点の本市の現状について減少割合を確認する。